

播磨灘広域共同調査（抄録）

（平成22年度漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業）

西岡智哉・酒井基介・平野 匠

本調査は、*Chattonella*属や*Karenia mikimotoi*等の有害赤潮種及びノリの色落ちを引き起こす珪藻等について、その増殖と環境要因の関係を調査し、赤潮による被害の未然防止や被害軽減に資することを目的とする。また、瀬戸内海東部海域において、赤潮多発期の夏季及びノリ養殖期の冬季に関係機関で連携のとれた広域共同調査を実施することで、栄養塩濃度、有害種の動態等を広域かつ経時的に把握し、瀬戸内海東部における有害赤潮種の出現特性等を明らかにするものである。

平成22年度における徳島県担当海域（播磨灘南東部）における有害種等の出現量について取りまとめたので、その概要を報告する。なお、詳細については「平成22年度漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業 赤潮・貧酸素水塊漁業被害防止対策事業報告書」を参照されたい。

1. 夏季調査

*C. antiqua*および*C. marina*については、7月上旬に初め

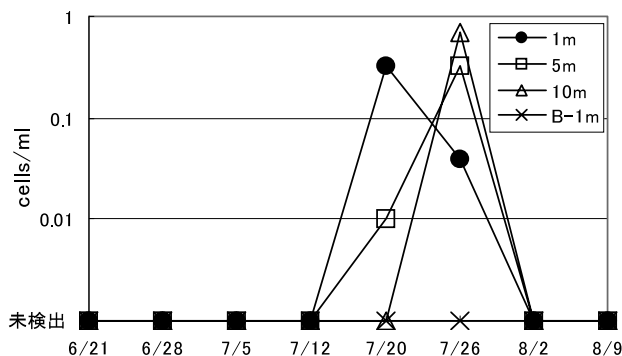


図1. 播磨灘南東部における
Chattonella(*antiqua*+*marina*)細胞数の推移

て検出したが、期間中は低密度で推移した。*K. mikimotoi*については、調査を開始した6月下旬の時点で検出し、7月以降は出現層が拡大するとともに高密度化した。

2. 冬季調査

ノリ色落ち原因種である*Coscinodiscus wailesii*が調査を開始した11月の時点で高密度に出現した。12月には同種は減少に転じ、その後は低密度で推移した。*Eucampia zodiacus*については、1月以降増加し、2月には全層で10cells/ml前後に達した。

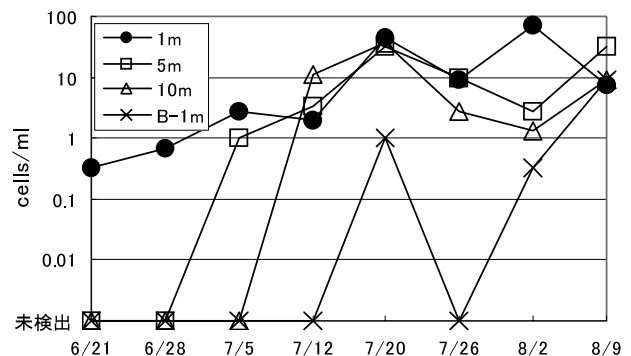


図2. 播磨灘南東部における*Karenia mikimotoi*細胞数の推移

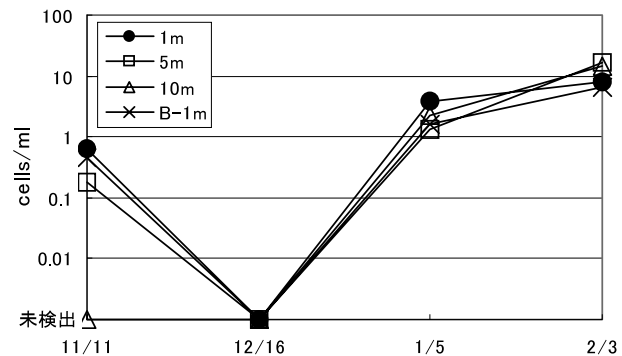


図3. 播磨灘南東部における*Eucampia zodiacus*細胞数の推移

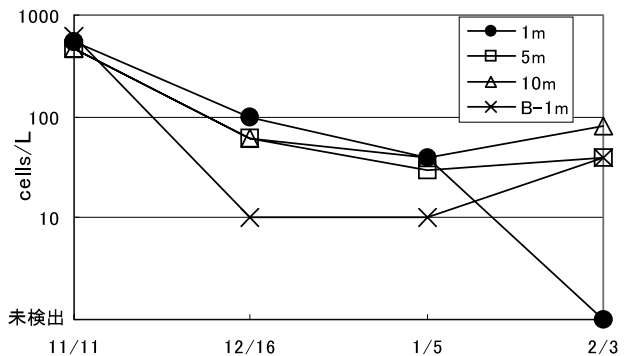


図4. 播磨灘南東部における*Coscinodiscus wailesii*細胞数の推移